

臨時軍事費營繕費工事訓令からみた軍政期南洋群島における建築活動

正会員 ○辻原 万規彦*
同 安浪 夕佳**海軍 公文備考 第一次世界大戦
通信 パラオ トラック

1. はじめに

筆者らは、戦前期の約 30 年間に亘って日本の統治下にあった旧南洋群島における建築活動に焦点を充てて研究を進めてきた。しかし、これまで、主に大正 11 年以降（委任統治期以降）を対象として研究を進めており、大正 3 年から 11 年までの軍政期に関する検討は不十分であった。また、軍政期南洋群島における建築活動に関する既往研究は、營繕組織に関する文献¹⁾を除いてほとんど見られない。そこで、本稿では、軍政期の南洋群島を対象として、海軍による建築活動の一端を明らかにすることを目的とする。なお、当時の用語や呼称をそのまま用い、引用文などは原則として現代仮名遣いに改めた。

2. 軍政期南洋群島と臨時軍事費

大正 3 年 9 月、第一次世界大戦の戦費を処理するために、臨時軍事費特別会計が設置され（大正 14 年 4 月最終）、南洋群島が軍政下にあった時期には、海軍省所管の臨時軍事費が使用された²⁾。この臨時軍事費の用途などの詳細は文献³⁾に詳しい。なお、本稿では、この臨時軍事費からの支出による建築活動を検討するが、民政費による建築活動の詳細は明らかにできていない。

3. 臨時軍事費營繕費による建築活動の概要

海軍省所管の臨時軍事費による南洋群島での建築活動は、防衛省防衛研究所図書館所蔵の海軍省公文備考の「臨時軍事費營繕費工事訓令」によってその詳細を把握することができる。これらの訓令は、公文備考の大正 10 年 巻 120～127、大正 11 年 巻 138、大正 12 年 巻 135 の合計 10 巻に、工事ごとに「臨営第〇号」との工事番号が付けられ、起案書類ごとひとまとめにして時系列的に綴じ込まれている。表 1 にその一覧を示す。表中の「(工事)番号」は起案罫紙に書かれた整理番号であり、日付は海軍省大臣官房からの訓令発日である。ただし、工事によってはその後数度の工事要領の変更が行われている。また、大正 10 年 12 月末日現在の『臨時軍事費工事現況報告書』(大正 11 年 2 月 15 日付 横須賀海軍建築部発 海軍建築本部宛 横建第 5 号の 65 所収、公備 T11 巻 138)にも、工事の一覧が示されており、照合の結果、表 1 に示す工事が臨時軍事費營繕費による工事のほぼ全てであると考えられる。なお、工事の一時見直しによる「(工事)番号」の書き換えなどによって欠番が生じた上に、横須

賀での工事などのように南洋群島外での工事を省略したため、表 1 の中の「(工事)番号」は連続していない。

ドイツ領南洋群島の占領後、最初に訓令された工事は、サイパン島とヤルート島での特設無線電信所仮設工事であり、大正 3 年中に、群島内各島での特設無線電信所仮設工事の施行が訓令されている。その後、臨時南洋群島防備隊の司令部が置かれたトラックでの工事が多くなり、大正 8 年頃からは、後に民政部が移転し、さらに南洋庁の本庁が置かれて委任統治行政の中心地となるパラオでの工事が多くなった。

4. 同時代の写真と訓令工事の照合と同定

これらの工事で建設された建築物などの写真は委任統治期以降に比べて限られており、同定は難しいが、写真で確認できたものを以下に示す。

(1) 民政部庁舎(臨営第 138 号)

パラオのコロール島の高地に建設された民政部庁舎の工事は官舎や宿舍などの工事も含み、表 1 に示す訓令工事中、最も高額な工事であった。官房機密第 494 号に添付された「臨時南洋群島防備隊民政署庁舎其他新営及気象観測所測候室其他新営工事ノ件」(大正 10 年 3 月 29 日付 海軍建築本部長発 横須賀海軍建築部長宛)には 1 階と 2 階の平面図(縮尺 200 分の 1)が添付されている。「設計及監督」には横須賀海軍建築部の海軍技手・立松義一が従事した⁴⁾。なお、南洋庁設置後は、本庁庁舎を別の場所に新設した後、高等法院として使用された。

(2) パラオ気象観測所(臨営第 149 号)

既報⁵⁾の南洋庁観測所(旧庁舎、RC 造)と气象台庁舎(新庁舎、RC 造一部木造)とは異なる木造の建築物であり、気象観測施設は都合三度の建て替えが行われた。大正 10 年 3 月 26 日に工事が訓令された当初から実施設計を進めながらその建設地について検討が進められたが、結局、官房機密第 206 号(大正 11 年 3 月 6 日)で漸く土地の買収が訓令された。「設計及監督」には横須賀海軍建築部の海軍技手・三谷嘉治郎が従事した⁴⁾。

(3) パラオ灯台(臨営第 159 号)

「パラオ諸島パラオ港に、設置せる白色閃光を発する第五等灯台」⁶⁾であり、「大正 12 年 12 月竣工、13 年 3 月より点灯を開始した」⁶⁾。この工事は、建設地の地質や材料の運搬の問題などから当初見込みよりも難工事となり

官房第 521 号（大正 12 年 3 月 1 日）で工事費が約 2 倍に増額された。なお、横須賀海軍經理部付の海軍技手・藤本專治が「横須賀海軍經理部建築科ニ於テ澄田技師及鈴木技師ノ下ニ」「工事ノ設計」を担当した⁴⁾。

（4）パラオ無線電信所無線室

臨時軍事費當繕費による工事によって南洋群島に建設された建築物の大半は現存が確認できていないが、パラオ無線電信所電信室については 2005 年現在で現存が確認できている。これまで、パラオ無線電信所電信室については大正 12 年の竣工であることなど限られた情報しか確認できなかった⁷⁾が、「臨時軍事費當繕費工事訓令」によってより詳細な情報が判明した。

官房機密第 1091 号で「パラオ無線電信所電信室其他新営工事」（臨営第 153 号）の施行が訓令されたのち、合計 3 回の工事要領の変更が行われた。臨営第 153 号の工事要領書では、電信室新営、電源室新営、渡廊下新営、軽油庫新営、重油庫新営、蒸溜室新営、下士官兵宿舍新営、貯水槽ならびに雑工事が訓令されていた。また、「南洋群島パラオ無線電信所位置図」や「パラオ無線電信所電信室及電源室配室図送付の件」（大正 10 年 7 月 14 日付 海軍建築本部長 横須賀海軍建築部長宛）も添付され、後者には、同年 6 月 30 日付けの図面が含まれている。

電信室と電源室が描かれたこの図面は海軍艦政本部第三部で調製され、計画係に「徳田」、製図と写図に「河原」と押印されている。また、裏面には大正 10 年 7 月 5 日の日付と「徳田」の印が確認できる。この「徳田」は、次のような理由から、徳田伊之助であると推測される。

徳田伊之助は、「追憶 電波と私」で、「ポナペ大無線

電信所は裏南洋ポナペ島に建設した。送信機は仏国製高周波発電機を装備した。（中略）この外、この外、ヤルート。ウオッゼー。トラック。サイパン。ポナペに無線電信所を建設したが、現状は不明である。」⁸⁾と述べている。文章の後半に再度ポナペと述べていること、フランス製高周波発電機はパラオ無線電信所に装備されていたことなどから、前半部はパラオの誤りであると考えられる。

また、徳田伊之助⁹⁾は、明治 35 年海軍兵学校卒業（30 期）後、明治 44 年海軍水雷学校特修科学生となって無線通信を研究し始め、大正 4 年に船橋無線電信所長として建設に関与した。大正 8 年 6 月 4 日付けで海軍艦政本部第三部（電気技術担当）部員となっており、図面の調製日には、艦政本部第三部に在籍している。ただし、経歴からも明らかであるが、徳田は海軍内の無線技術者であり、実際にパラオ無線電信所を細部に至るまで設計したか否かについては疑問が残る。

一方、『職員進退録』には、「設計及監督」には横須賀海軍建築部の海軍技手・三谷嘉治郎が従事した⁴⁾旨の記述があり、両者の関係については今後の検討課題である。

5. おわりに

本稿では、防衛省防衛研究所図書館所蔵の海軍省公文備考を用いて、軍政南洋群島における臨時軍事費當繕費による工事の概要を明らかにした。

謝辞

本報の一部は、平成 16～18 年度科学研究費補助金（若手研究（B）、課題番号 16760520）によった。また、軍政期南洋群島の建築組織については、鶴見工業高等学校の中島久男先生から文献 1）を賜った。記して謝意を表す。

参考文献・注

- 1) 中島久男：明治期に於ける海軍省當繕事業の歴史的研究，東京大学学位請求論文，2005.7
- 2) 海軍歴史保存会編：日本海軍史 第 7 卷，第一法規出版，1995.11
- 3) 小池聖一：臨時軍事費から見た第一次世界大戦と海軍，海軍史研究，第 2 号，pp.37～48，1992.3
- 4) 大正 12 年職員進退録巻八。なお、文献 1) を基に、防衛研究所図書館所蔵の『職員進退録』を、該当する期間について再度精査した結果である。
- 5) 辻原，今村，香川：旧パラオ医院本館と旧南洋庁観測所および気象台庁舎について，建築学会九州支部研究報告，第 42 号・3，pp.613～616，2003.3
- 6) 南洋庁長官々房：南洋庁施政十年史，南洋庁長官々房，1932.7
- 7) 岩田，辻原，今村，柏木，古内，山本，岡本：「ペラウ国立博物館開館 50 周年記念特別展示- パラオの日本建築文化-」について- その 1 展示の概要と南洋庁本庁庁舎の復元-，建築学会九州支部研究報告，第 45 号・3，pp.773～776，2006.3
- 8) 徳田伊之助：追憶 電波と私，海軍電波追憶集 第 4 号，海軍電波関係物故者顕彰慰霊会，pp.157～169，1965
- 9) 海軍歴史保存会編：日本海軍史 第 10 卷，第一法規出版，1995.11

表 1 臨時軍事費當繕費による軍政期南洋群島における訓令工事一覧

工事名	番号	日付	工事名	番号	日付
サイパン島特設無線電信所仮設	51	T3.10.4	臨時南洋群島防備隊製氷機室及水室新営	112	T7.6.22
ヤルート島特設無線電信所仮設	52	T3.10.4	臨時南洋群島防備隊トラック柔道場新営	114	T7.7.9
ヤップ島特設無線電信所仮設	56	T3.11.9	臨時南洋群島防備隊トラック夏島小銃撃場新設	113	T7.7.24
ヤルート島軍用通信所設備	59	T3.11.9	臨時南洋群島防備隊トラック夏島無線電信所兵員詰所機務替其他附帯工事	116	T7.9.6
コロール島特設無線電信所仮設	62	T3.11.21	臨時南洋群島防備隊トラック夏島見張所新設	117	T7.11.15
アンガウル島特設無線電信所仮設	63	T3.11.21	臨時南洋群島防備隊サイパン島特設無線電信所修繕	119	T8.3.1
トラック島特設無線電信所仮設	66	T3.12.28	臨時南洋群島防備隊トラック守備隊本部用水槽並兵員用豆腐製造場新設	120	T8.7.8
クサイ島特設無線電信所仮設	67	T3.12.28	臨時南洋群島防備隊トラック無線電信所其他増設	122	T8.9.29
ポナペ島特設無線電信所仮設	68	T3.12.28	臨時南洋群島防備隊司令部庁舎其他増設	123	T8.9.29
ヤップ島特設無線電信所仮設	69	T3.12.28	臨時南洋群島防備隊バラオ守備隊兵舎其他増設	124	T8.9.29
南洋群島防備隊建造物仮設	71	T4.1.14	臨時南洋群島防備隊ポナペ守備隊官舎修繕及無線電信所設備	125	T8.9.29
トラック島防備隊建造物仮設	72	-	臨時南洋群島防備隊ウオッジ無線電信所其他増設	126	T8.9.29
南洋群島防備隊司令部第一分舎新築	77	T4.7.12	臨時南洋群島防備隊コロール島短艇水路開削及埋築	129	T9.2.23
南洋群島防備隊鍛冶工場新築	79	T4.8.10	臨時南洋群島防備隊トラック竹島棟新設	130	T9.3.3
南洋群島防備隊水室新築	82	T4.11.29	臨時南洋群島防備隊トラック竹島炭置場上家其他増設	133	T9.6.30
南洋群島防備隊最上事務室増築並最上渡廊下新営	84	T4.11.29	ウオッジ無線電信所官舎其他新営	137	T9.10.16
ヤルート守備隊天水槽増設	85	T4.11.29	臨時南洋群島防備隊サイパン島無線電信所風害復旧	139	T9.11.10
クサイ島特設無線電信所工作物ヲ分駐所ニ移築	86	T4.11.29	臨時南洋群島防備隊マラカル島貯水槽新設	140	T9.12.11
南洋群島防備隊司令部及トラック守備隊天水槽増設	87	T4.11.29	臨時南洋群島防備隊司令部官舎其他新営	141	T9.12.11
南洋群島防備隊電灯新設	89	T5.3.18	臨時南洋群島防備隊ヤップ特設無線電信所々長室其他増築	142	T9.12.11
ヤップ島特設無線電信所仮設	90	T5.5.16	臨時南洋群島防備隊ヤップ守備隊及無線電信所官舎其他新営	143	T9.12.11
サイパン島守備隊所新営	93	T5.9.11	臨時南洋群島防備隊ポナペ守備隊官舎其他増築	146	T9.12.11
トラック島海軍用郵便所吏員舎増築	95	T6.1.31	臨時南洋群島防備隊トラック守備隊官舎其他増設	147	T9.12.11
南洋群島防備隊進士官事務室増築	96	T6.1.31	臨時南洋群島防備隊民政部庁舎其他新営	138	T10.3.26
トラック島特設無線電信所下水槽増設	97	T6.1.31	臨時南洋群島防備隊バラオ気象観測所検査室其他新営	149	T10.3.26
トラック島特設無線電信所天水槽増設	98	T6.3.15	臨時南洋群島防備隊バラオ無線電信所電信室其他新営	153	T10.7.9
バラオ島守備隊本部見張所間電話線新設	99	T6.3.15	臨時南洋群島防備隊バラオ守備隊本部食堂其他増設	155	T10.8.24
サイパン守備隊及特設無線電信所間電話線修繕	106	T7.2.6	臨時南洋群島バラオ守備隊本部其他棟修繕	156	T10.8.24
サイパン特設無線電信所水槽改造並兵員詰所電信室渡廊下新営	107	T7.2.6	臨時南洋群島防備隊バラオ無線電信所風水害復旧	157	T10.9.27
南洋群島防備隊司令部倉庫及炊事場増築其他	108	T7.2.6	臨時南洋群島防備隊ヤップ民政署舎其他増設	159	T10.12.24
ヤップ守備隊本部及附属家改築	109	T7.6.19	臨時南洋群島防備隊バラオ灯台増設	160	T10.12.24
バラオ守備隊建造物改築	110	T7.6.19	臨時南洋群島防備隊バラオ修理工場其他増設	161	T10.12.24
コロール特設無線電信所増備	111	T7.6.19	臨時南洋群島防備隊司令部トラック無線電信所間電話線新設	163	T11.2.8

* 熊本県立大学環境共生学部 准教授・博士（工学）
 ** 熊本県立大学環境共生学部 助手・修士（環境共生学）

* Assoc. Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.
 ** Assistant, Prefectural University of Kumamoto, M. ESS